

長崎自然共生フォーラム News Letter

初夏号(第9号) 2010年6月1日 発行

論説に代えて —

COP15(第15回気候変動枠組み条約締約国会議)と低炭素社会～地球環境国際フォーラムinながさき～から

事務局 川里弘孝

2010年3月20日(土)午後長崎大学中部講堂で、長崎大学環境科学部主催の標記シンポジウムがあった。本会の運営委員でもある武政剛弘学部長のあいさつに始まった、シンポの内容について概要を紹介する。

●講演：COP15 までの気候変動に関する国際交渉の経緯

(長崎大学環境科学部教授・菊池英弘)

- ・気候変動枠組み条約第3条1の規定により、先進締結国は、率先して気候変動及びその悪影響に対処すべきであるとされた。
- ・京都議定書で定めた削減目標(1997年)は、5年間(2008～2012年)でEU8%、米国7%、日本6%、締約国全体5%(1990年比)である。
- ・COP13(インドネシア・バリ島：2007年)で、2009年までに2013年以降の新しい枠組みについて合意するとされた。これはCOP15が交渉のゴールになることを意味する。(1995年ベルリン・マンデートでのCOP1から15年過ぎた、果たして目標達成できるのだろうか。心配はつのる。～筆者)

●基調講演：コペンハーゲン合意とこれからの社会

～低炭素社会への地域と世界の転換は始まった～

(京都大学大学院地球環境学堂教授・松下和夫)

講演の大きな項目は次の6点だった。

1. 加速化する温暖化への懸念、
2. 国際社会の取り組み、
3. COP15はどんな会議だったのか、
4. 日本の中期目標とグリーン・ニューディール、
5. 自治体における温暖化対策、
6. 脱温暖化インフラ整備事例

身近な話題として5、6について概略を報告する。

(地方自治体の温暖化対策)

- ・計画者として→温暖化防止計画の立案、目標設定、施策の総合化。
- ・事業者として→率先実行計画、数値目標を掲げる、エネルギー節約、廃棄物処理・上下水道事業・公立学校・公立病院の運営活動。
- ・市民への働きかけ→普及・啓発、助成・支援。
- ・温暖化対策公共事業の実施、社会システム整備(削減義務付け)、経済的手段(炭素税)。

(地域取り組み事例1)：地域エネルギー

○公共施設への太陽光・風力発電～川崎市、○市民共同発電所～北海道グリーンファンド・グリーンエネルギー青森・南信州おひさまファンド(飯田市)・備前自然エネルギー(備前市)、○自治体風力発電所(山形・立川町)、小水力発電(鹿児島・薩摩町)。

(地域取り組み事例2)：地域資源循環

○バイオマス利用～バイオマス総合戦略(2002)・ペレットストーブ・雪冷熱、○循環利用システム～小バイオガスプラント(埼玉・小川町)、生ゴミ堆肥化(山形・長井市、栃木・野木町、宮崎・綾町)、菜の花プロジェクト：バイオディーゼル燃料(滋賀・愛東町、大阪市西淀川、八日市市高島市)、林産系廃棄物循環システム(屋久島)。

(地域取り組み事例3)：交通システム

○公用車低公害車化、○交通総量抑制：交通需要マネジメント、○路面電車の活用(路面電車の環状化：岡山、ライトレール：富山)、自転車の街づくり、○パーク・アンド・バス(レール)ライド(鎌倉市・金沢市)、○カーシェアリング(横浜市・海老名市・福岡市)○環境担当部局と交通担当部局の連携。

(地域取り組み事例4)：住宅・建築物整備

○ヒートアイランド対策、○省エネ改修・断熱性向上、○緑地・水面・農地確保、○屋上緑化・保水性舗装・保水タイル、○風の道確保、○建築物の環境性能評価

(地域取り組み事例5)：規制的手法・経済的手段

○立地・営業時間・削減策定義務・自然エネルギー施設設置義務・屋上緑化義務、○環境税・炭素税・排出量取引・クリーン開発メカニズム、環境ラベリング：家電電力消費量表示。

まとめ

- ・低炭素社会へのパラダイムシフト ・世界は確実に動いている ・日本はどうする？
- ・これからの地域は、どうなる？ どうする？
- ・地域からの挑戦と革新：人間の生活の「場」としての地域社会

(地域の、地域による、地域のための「地域主権」が環境を通じて、よく理解できた国際フォーラムだった。このような企画はなかなか出来がたいが、地域レベルでのドブ板論議を期待したい。自分が出来ることからやる姿勢を持つことの大切さを改めて感じた。)

市民ネットワークとまちづくり ～パートナーシップ準備会議開かれる。

事務局

5月31日(月) 18:00 から 20:00 まで、長崎市男女共同参画センター:アマランスで標記のコアメンバー会議(第2回)が開かれたので、オブザーバー参加した。市民ネットワークづくりとまちづくりを目指す、すべての分野のキーパーソンと見なされる30人近くが集まった。市民・環境・福祉・まちづくり・平和などの各団体の代表や個人が中心で、長崎市の環境保全課が事務局である。宮原総科大教授が議長となつて、石橋教授、蒲原講師、原田主幹、吉田係長がサポート役の準備会議だった。異分野の人がそれぞれ思いを述べ、共通の言葉を認識しあつた。今回の主な協議内容は次ぎのとおり。

1. パートナーシップコア会議の今後の展開
2. インターネット上のプラットフォーム構築のイメージ
3. 環境月間アーケードキャンペーン(6/12)
4. 次回の日程調整(7月 第3回, 8月 コア会議, 9月 第5回)

既に第1回は5月15日(土) 市立図書館で開かれており、田上市長は「職員は書類を捨ててまちに出よう」と街で学ぶことを強調、早瀬温暖化協議会長も「市民だって縦割りじゃないか」と市民社会の壁をなくすためのネットワークづくりを提唱している。今後、行政・市民・事業者のパートナーシップが協働の実社会をつくり上げ、各地域の集まりがさらに連携するものすごいパワーとなる、熱意を感じた2時間だった。(川里弘孝)

平成21年度第2回研究会報告

事務局

テーマ：優しき生の耕人たちー世界の新しいパラダイムを求めて

講師：多木陽介(演出家・作家・批評家～ローマ在住)

12月21日(月) 長崎大学総合教育棟(生産科学研究棟)：108室で行われた。出席者36名。進行は世話役(日比氏・城谷氏)を代表して当会の菅委員で行われた。話題のテーマが大きかったか、環境科学部の先生方、院生、学生が多かった。しかし、早稻田(院)出身で演劇・写真・執筆・講演・翻訳など大忙しの氏の話は大変面白く、造園関係者にはぴったりの内容だった。概要を記す。

今、世界にとって必要なことは、それまで存在しなかった新しい機能であり、それを優しき耕し人としての地域職人が産み出すことである。3つの軸はエコロジ(ecology), デモクラシー(democracy), 芸術(poesy)であり、それぞれ自然環境、社会環境、精神環境のエコロジでもあるのだ。地域職人とは次の3者を指す。1. 教育者 2. クラウンマスター(達人? :通称 パッチさん) 3. 庭師 である。教育者は、家の外は危ないとか都市から子供たちが逃げる現状に目を向け、行政は子供の視点に降りてたとえば子供議会・参加型催し・子供が駆け込める店舗などを用意して地域の連帯感を深め、治安をよくする必要がある。要するに健康な公共空間を保つことだ。そして庭師は生き物の保護を考えながら造園し、生命の流れの中に入れてもらう庭づくりをする。エントロピー(一様化)抵抗の庭づくり、それを活かした庭づくり、たとえば殺虫剤を使わない庭づくりを心がけなければならない。自然の創造力に人間の創造力を加える、たとえば風景のズレ(動き)は美しい。庭師の役割は美しい庭(風景)の管理であり、生命を守る仕掛けをつくることである。庭師はエコロジストなのである。(事務局 川里弘孝)

2010 九州環境教育ミーティング：雲仙で開かれる！

事務局

去る3月6日(土) から7日(日)にかけて、恒例の集まりが休暇村雲仙であった。おやま(雲仙)に学ぶ環境教育～自然・文化・暮らしの再生～とのサブテーマで、80名余が集まったという。九州環境教育ミーティングが主催し、(社)日本環境教育フォーラムが共催している。各省庁、各県並びに教育委員会、各団体も後援している。数年前、「とりかぶと村」でも開催された。今回は本会の菅 洋一氏が、現地委員の一人として実施パートを受け持った。地域に根づいた「食」：手延べそうめんに学ぶという分科会で、代々続いた麺師の話は人気を呼んだそうだ。このほか7つの分科会はジオパークや棚田など島原半島ならではの話題だった。

長崎県生物学会第 39 回大会の開催

事務局

恒例の大会（講演会・研究発表）が、22 年 1 月 10 日（日）佐世保市：県立大学佐世保校附属図書館（多目的ホール）であった。総会を兼ねる年 1 回の大会で、長崎市と佐世保市とで交互に開かれており、会員 40 名余が集まった。10：00 開会、総会行事（会長 中西弘樹長崎大学教授）は滞りなく運んで、メインの学術講演は「昆虫の探索行動と空間認知」と題して、長崎大学環境科学部の岡田二郎准教授が講演された。午後からは口頭発表とポスター発表が行われ、時間中は書籍販売も行われ、15：55 盛会裏に終わった。以下、参考までに講演内容と発表テーマを掲げる。

<講演内容>

動物は探索により自身が置かれた空間環境を知ることができる。とりわけ視覚以外の手段に依存する場合、動物は周囲を歩き回りながら触覚を用いて探索をおこなう。本演題では、室内の行動実験に基づいた夜行性昆虫（コオロギとゴキブリ）の探索行動と空間認知について紹介する。（大会レジュメから）

<口頭発表>

- ①大村湾のスナメリ：中村晴美（西海パールシー）
- ②遺伝子から見た HTLV-1 と日本人のかかわり～どこから来て、どのようにひろまったか～：江口克之・藤井秀文・大谷正史・大島謙吾・山本太郎（長大熱帯医学研究所）
- ③長崎県野母半島沿岸で捕獲されたインダイとインガキダイの交雑種：末吉麻耶子（長崎ペンギン水族館）
- ④長崎市における総合公園の植物：小椋ゆうき・中西こずえ（長崎大学・環境科学部）
- ⑤長崎県新記録のヤクヤモリ：松尾公則（長崎北高校）
- ⑥ウスアオリングの生長記録：遊佐匡子（西海パールシー）
- ⑦長崎県の蝶類の現状：峰 正隆（諫早高校）
- ⑧長崎県のカヤツリグサ科植物の分布と生態：田中慶太（長崎市立戸町中）

<ポスター発表>

- ①長崎県沿岸のウミシダ類（棘皮動物門；ウミユリ綱）：幸塚久典（長崎ペンギン水族館）
- ②マガモは同じ経路を往復するか？：馬田勝義（早岐小）
- ③長崎県におけるハマオモトの分布と生態：三浦夏奈子・中西弘樹（長崎大・教育）
- ④対馬における 5 年間のヌマガエル分布拡大：三谷奈保・戸田光彦（自然研）・萩野伊万里（武蔵美）・玖珠博一（対馬市役所）・野田一男（対馬林業）・松尾公則（長崎北高）
- ⑤植生帯内における蘚苔類のフロラ多様性：平井舞子・金子由紀・陳曉慧・中西こずえ（長崎大学・環境科学部）
- ⑥対馬で捕獲されたユキソデフリウオについて：山崎悠介（西海パールシー）

- ⑦長崎県で発生したキョウチクトウスズメガ：池崎義博（長崎短大）
- ⑧長崎県大村湾の海産種子植物：吉岡一也・中西弘樹（長崎大・教育）
- ⑨兵庫県から飛来したコウノトリ：谷口秀樹（長崎市鳴海台小）
- ⑩長崎県における水田及周边雑草フロラの季節変化：堀田智子・山口知子・中西こずえ（長崎大学・環境科学部）
- ⑪対馬で発見したドロアワモチ：小原良典（西町小）。

はるの山歩き&農産物フェア開かれる～とりかぶと自然学校主催行事

事務局

恒例の「ツクシシャクナゲ鑑賞会」と即売会が 5 月 1 日（土）に“とりかぶと村”で行われた。4 月 2 日（金）の「花見：とりかぶと桜まつり」の時と同じく、好天に恵まれて多くの参加者があり、賑わった。年々若い人の参加が増え、寡黙な菅村長さん（？）：当会運営委員はしてやったりのご満悦の様子。と言うのは、突貫工事並みに仕上げた新築 2 棟の出来ばえが良かったからではないかと勝手に推察する。構造建築家としてのプライドと自信は並々ならぬものがあると心から賞賛を送りたい。宇宙船をイメージしたという農産物フェア会場は多くの来訪者であふれたが、ご自慢の水車米の売れゆきは聞き漏らした。胚芽いっぱいのはマニアには応えられない。大半は新規醸造酒にまわるそうだが、こちらも大いに期待したい。

今年のシャクナゲは少し迫力に欠けたそうだが、また来季も鯖江リーダーはじめスタッフの方々に頑張っていただきたい。

談話室 —

生きがい～人生はいつも「今から」

事務局 川里弘孝

プロスキーヤーであり、クラーク記念国際高等学校長でもある、三浦雄一郎氏の講演会があった。大村ロータリークラブ 50 周年記念として行われたものだが、有名人ゆえ会場の大村シーハット：大講堂は満席だった。「夢に勇気」という触れ込みで、75 歳にして二度目の世界最高峰エベレストへ挑戦した氏の、究極のアンチエイジング（抗加齢）の試みは、山頂からの第一声「涙が出るほど辛くて、厳しくて、嬉しい！」に凝縮される。唸るほかないが、その原動力は飽くなき「好奇心」と「夢を追い続ける心」にあるという。万人老いは避けられないが、生きがいを持つと共に、家族と人の絆の大切さを知る、いい機会だった。

ブックガイド

- イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか〜樹木の生き残り戦略. 渡辺一夫 2009. 250pp. 築地書館, 東京. (樹木は生態系の中心的存在と考えている筆者にとっても有意義な内容だった. 環境にあった人の生き方戦略にも相通じるのではなかろうか.)
- 環境思想とは何か〜環境主義からエコロジズムへ. 松野 弘 2009. 300pp. ちくま新書, 東京. (20世紀初頭アメリカでのヘッチヘッチ論争での, 自然環境と人間文明との共存と言う, 永遠の命題の再考を促している. 産業主義思想と環境主義思想との対立は, 「緑の国家」的社會制度の構築を望めないのだろうか?)
- 地球の洞察〜他文化時代の環境哲学. J・ベアード・キャリコット(山内・村上監訳) 2009. 516pp+44. みすず書房, 東京. (アジアからアフリカまでエコロジカルな環境倫理に言及している. ボリュームがあるが, その分実践へ向けた多くの示唆が含まれ, 読み応えがある.)
- 夢に勇気を〜世界最高峰エベレストへの挑戦. 三浦雄一郎 2009. 225PP. 日経プレミアム新書, 東京. (当地, 大村で記念講演会があった. 飽くなき「好奇心」と「夢を追う青春の心」を持つ人の話は, 高齢化社会への「生きがい」のカンフル剤→→→交流広場へ)
- 保全生態学の技法: 調査・研究・実践マニュアル. 鷺谷いづみ他(編) 2010. 313pp. 東京大学出版会, 東京. (アマチュア・セミプロ・プロに通じる, 生物多様性社会解明への研究法がこの一冊でわかる.)
- ガラパゴスのふしぎ ゾウガメが一千キロの海を越えた方法は?. NPO 法人日本ガラパゴスの会 2010. 238pp. サイエンス・アイ新書, 東京. (ガラパゴス専門家 13 人が語るガラパゴスの本当の姿, わかりやすい表現で, ダーウィン進化論の最新情報である. ネイティブ植物で庭づくりは筆者も以前から考えていた.)
- 人生の不思議. 立川昭二 2009. 217pp. 新潮社, 東京. (路地裏の歴史学の開拓者と自負し, 生老病死を追究している戦中派の死生観. 山好きなところも共感を憶える.)
- 山は市場原理主義と闘っている. 安田喜憲 2009. 333pp. 東洋経済新報社, 東京. (環境考古学を提唱した著者が説く, 稲作漁撈民の天地をつなぐ論説. 以前, 長崎で開かれた“環境と文明”シンポジウムでのパネリスト. 会食時の微笑が印象に残る.)

事務局だより

- 会発足以来, 宮原会長の研究室に置かせていただいた事務局住所を, このたび会長のご厚意により, 環境カウンセリング協会長崎の事務局に間借りさせていただくことになりました. 五島町公園前のビルの2階で, フロア

は広くてソファ, 会議テーブルも整い, 快適な空間です. 幹事会などにはもってこいの場所だと思います. 心気一転, おおいに活用させて貰いましょう.

新住所: 〒850-0004 長崎市五島町 3-3-206 NPO 環境
カウンセリング協会長崎内. (TEL: 095-818-3305, FAX: 095-826-3693)

編集後記

政権はチェンジした. 当会も創立 10 周年を過ぎて, 方向性をチェンジする必要はないだろうか. つまり官製団体から民意あふれる共同体へ変わることである. われわれの果たす役割を検証し, 議論を重ねて方向性を見定め, アピールを続けることであろう. 自然との共生は, 地域での意識と実践の両輪によって成り立つ. さらなる各位のご協力をお願いしたい. なおお上のお達しとは言わないが, 残念ながら県自然環境課職員が全員退会となった. 異業種交流の世の中, とくに技術系は横割りの情報収集が必要と思うのだが.

【編集部から】

原稿を募集します. 論説・随想・紀行文・技術報告・写真等, 体裁は問いません. 最低 1,000~1,200 字程度でお願いします. 二段組みはこちらでやります. E-mail での投稿, 大歓迎です. (M)

(nagasaki_coexistence@hotmail.com)

事務局	会長 宮原和明 〒850-0004 長崎市五島町 3-3-206 NPO 環境カウンセリング協会長崎内 TEL: 095-818-3305/FAX: 095-826-3693 牧: 090-7161-5408 E-mail: Nagasaki_coexistence@hotmail.com
アネックス 1	事務局長 川里弘孝 〒856-0824 大村市水田町 1098 (長崎大学大学院生産科学研究科) TEL: 0957-50-1355 FAX: 0957-50-1355
アネックス 2	副事務局長 為永一夫 (県央地区担当) 〒856-0820 大村市協和町 790 (株) タメナガ造園 TEL: 0957-54-0271 FAX: 0957-54-1127
アネックス 3	副事務局長 松田英明 (県南地区担当) 〒851-2212 長崎市畝刈町 1613-251 (株) 松田久花園 TEL: 095-850-0714 FAX: 095-850-0715
アネックス 4	副会長 山本規仁 〒857-0103 佐世保市原分町 1052-3 山本造園土木 (株) TEL: 0956-49-3939 FAX: 0956-49-4747
アネックス 5	副事務局長 田維豪裕 (県北地区担当) 〒857-1161 佐世保市大塔町 574-5 (株) 庭建 TEL: 0956-31-2011 FAX: 0956-31-2310